

ロケットによる人工衛星等の打上げに係る安全評価基準に関する調査審議について（案）

平成11年4月21日  
宇宙開発委員会決定

1. 調査審議の趣旨

- (1) 安全評価部会においては、宇宙開発事業団等による、射場周辺における警戒区域設定の基礎となるロケット推進薬の爆発威力に関する実験・解析等研究について、平成4年から調査審議を進め、これまでに、そのTNT爆薬換算率（以下「換算率」という。）の見直し等について、所要の成果が得られている。
- (2) また、本年度にはH-IIAロケット試験機（標準型）による先端型データ中継技術衛星（ARTEMIS）の打上げ等が予定されており、さらに来年度以降には、受託打上げによる年間打上げ回数の増加、液体ロケットブースタの追加装備による静止3トン以上の打上げ能力の向上も期待されているところであり、これらの安全性について最新の換算率等に基づき評価していくことが適当である。
- (3) これらを踏まえ、「ロケットによる人工衛星等の打上げに係る安全評価のための基本指針」（平成6年6月策定。以下「指針」という。）について、最新の換算率等に基づく警戒区域算出式等を盛り込むなど一層の明確化を図ることにより、想定される今後の打上げに係る安全評価に適用できる具体的な基準とし、調査審議の一層の効率化、透明性の確保を図ることが必要である。

(4) このため、指針及びこれまでの同部会における換算率等に関する調査審議結果等を踏まえて「ロケットによる人工衛星等の打上げに係る安全評価基準」について検討し、策定するものとする。

2. 調査審議事項

ロケットによる人工衛星等の打上げに係る安全評価基準の検討・策定

3. 調査審議は、安全評価部会において行うこととし、これまでの調査審議状況等を踏まえ、できるだけ早期に終えることとする。

(参考)

宇宙開発委員会安全評価部会構成員

(部会長)

吉田 忠雄 元法政大学教授

(部会長代理)

山中 龍夫 元横浜国立大学教授

(専門委員)

岩崎 民子	(財) 放射線影響協会疫学センター長
岡本 謙一	郵政省通信総合研究所標準計測部長
河村 光隆	通商産業省工業技術院物質工学工業技術研究所 高分子材料部長
栗林 忠男	慶應義塾大学法学部教授
近藤 恭平	東京大学工学部教授
坂田 八昭	(社) 日本遊技関連事業協会参与
佐藤 壽久	中央大学理工学部教授
佐藤 吉信	東京商船大学商船学部教授
戸田 劍	科学技術庁航空宇宙技術研究所研究総務官
長谷川和俊	消防庁消防研究所第二研究部長
雛田 元紀	文部省宇宙科学研究所教授
平野 敏右	元東京大学教授
三浦 秀一	宇宙開発事業団理事
谷島 一嘉	日本大学医学部教授